

善徳寺幼稚園の施設案内

□園舎

善徳寺幼稚園の現在の園舎は、平成27年に建設されました。幼稚園というと、「白」や「パステル」調の色合いの園舎が多いですが、本園は、「落ち着きのある」、「ホッとする」、「褪せることがない」建物を目指し設計しました。

園舎は、子どもたちにとって「遊園地」ではなく、学びの場です。その教育の先にあるものは、心身ともバランスの取れた「落ち着き」です。また、遊び、学んだ園舎が、子どもたちのホッとする「ふるさと」になってもらえたらとの思いがあります。

南向きの園舎は、どこにいても自然の日光が一杯で、築400年の歴史あるお寺の本堂との一体感も感じられます。日光、そして仏様の光の中で、健やかに子どもたちは日々を送っています。



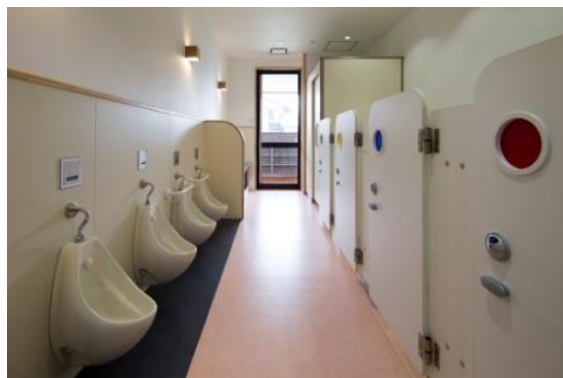
□教室

教室の開放口は大きく、太陽の光や、自然の風を感じる事が出来ます。春、秋には、心地の良い風が吹き込んできます。また、廊下の木製デッキは、縁側をイメージし、教室の延長部分としても使えるように考えました。

室内にも手洗い場を設け、三つの蛇口のうち二つは、衛生面から自動手洗い、そして、残りはひねる感覚も大切だと考え、手回しの蛇口にしています。子どもたちが様々な蛇口に対応できるように考慮しています。

床はソフト素材でできており、学習だけでなく、遊戯などにも適切です。また、近年の異常な暑さ対策のため、冷房を全教室に導入しました。

なお、教室の電灯ははっきりと物が見えるようにやや暖色の白色を用い、廊下は暖色の電灯にしています。これは、暖かいイメージを大切にし、特に冬は日が暮れるのが早く、子どもたちの寂しさが軽減できるように考えました。また、トイレは明るく楽しく「子どもたちが行きたくなるようなトイレ」にしました。



□園庭

本園の園庭は、全面人工芝です。人工芝といっても、ペラペラのものではなく、毛足が長く、砂とゴムチップが入っています。ゴムチップは中古タイヤの再利用などではなく、もちろん健康に問題のないものが使われています。

なぜ、全面人工芝にしたかという、ある全面人工芝の幼稚園に視察に行った際に、その園の子どもたちの動きが素晴らしかったから。飛んだり跳ねたり、走り回ったり、寝転んでくるくるしたり、クッション性が良いから身体を動かしたくなるのでしょう。

導入後、本園の子どもたちの動きや遊びも変わったように思います。また、強制はしていませんが、裸足で遊ぶ子もおり、それもまた、子どもの成長に良い影響があるように思います。とにかく身体を動かすことの喜びを、この時期に身に着けて欲しいとの思いがあるのです。



テニスコーチを招き、テニス遊び。



楽しみにしているゆかた会。



「土が子どもを育てるのでは」という疑問を持たれる方がいらっしゃると思います。もちろん、大きな砂場がありますし、道具置き場は、良質な砂が取れるために泥団子を作るスペースとなっています。しかも、善徳寺幼稚園の園庭はここだけではないのです。

□園庭 ビオトープゾーン

本堂と幼稚園の間には、以前、小川がありました。現在は、地中の管になりましたが、本堂後ろの洞窟から山水が湧き、池に注いでいます。池には、アメンボ、メダカ、鯉、沢蟹、やごなどがおり、子どもたちの格好の遊び場所、観察の場所となっています。

また、トマト、季節の花などを植えており、成長を楽しみにしています。

□園庭 いちようグランド

いちようグランドは天然芝で、夏季には芝刈、散水などの管理しています。秋には、バッタやカマキリを追いかけて子どもたちが走り回っています。

大きないちようは、黄色いじゅうたんを敷き詰め、広島市の保存樹であるイヌマキは、たくさんの「種」を落とします。それらを拾い集めるのも楽しいようです。

このような環境の中で、善徳寺幼稚園の子どもたちは、日々の生活を送り、様々な学びを得ています。

